

神奈川県西部におけるコキクガシラコウモリの分布状況

山口尚子・山口喜盛

Naoko Yamaguchi and Yoshimori Yamaguchi:

Distribution of *Rhinolophus cornutusto* in Western Area of Kanagawa Prefecture

はじめに

コキクガシラコウモリ *Rhinolophus cornutusto* は国内に広く分布し、洞穴を昼間のねぐらにしている (阿部, 1994)。神奈川県では、かつて鎌倉市の洞穴に多く見られたが (Shibata & Terajima, 1958)、開発によって消滅しており (寺島・柴田, 1986)、最近では、丹沢山麓の清川村宮ヶ瀬 (山口ほか, 2002) と箱根山麓の小田原市風祭 (山口・志村, 2004) の洞穴で小群が確認されているに過ぎない。コキクガシラコウモリは神奈川県レッドデータ生物調査報告書 (神奈川県立生命の星・地球博物館, 1995) では「減少種」とされているが、このようなことから、実際は神奈川県において絶滅の危機に瀕している種と考えられる。

筆者らは、このように絶滅が心配されるコウモリ類の生息状況を把握するために、県西部において洞穴をねぐらにする種の調査を行ったところ、新たに4ヵ所でコキクガシラコウモリの生息を確認したので、ここに報告する。

調査地の概要と調査方法

神奈川県のほぼ中央を流れる相模川で東西を分けると、東側はほとんどが人の生活域になっているが、西側は丹

沢・箱根の山地や丘陵地が広く占めている。この県西部において、2003年11月から2005年1月にかけて洞穴をねぐらにするコウモリ類の生息状況を調べた。調査方法は、聞き込みや文献などにより、用水路、横穴式井戸、戦時中の陣地跡などの洞穴を探し、見つかったら内部に入って目視により記録するか、暗くなるころ開口部で待機し、コウモリが出巣する時に出す声をバットディテクター (BAT DETECTOR, MINI-3 型, Ultra Sound Advice 社) で聞いて確認した。コキクガシラコウモリの出す声の周波数 (105kHz 前後) と聞こえ方は他に類がないので、他種との識別は容易であった。調査期間に得られた情報だけでなく、筆者らがこれまで確認した記録も加えて整理した。

調査結果

これまで筆者らが確認した記録 (①～③) に、今回の調査で見つかった記録 (④～⑦) を加えると次のようになる (図1, 表1)。

①清川村宮ヶ瀬の洞穴

1998年12月31日、洞穴の中で冬眠中の3個体が目撃された (山口ほか, 2002)。繁殖期には確認されなかった

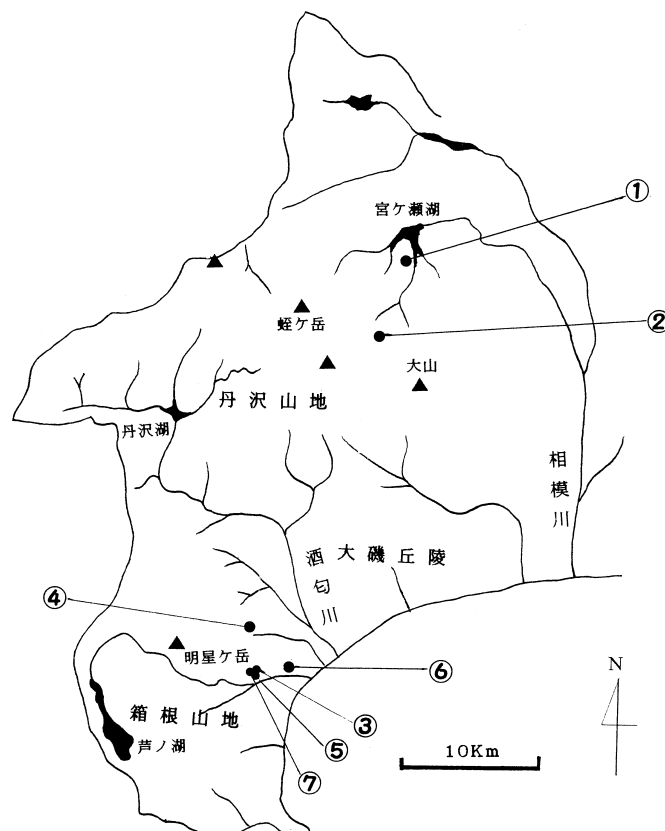


図1. 神奈川県西部におけるコキクガシラコウモリの分布.

表 1. 神奈川県西部におけるコキクガシラコウモリの記録

調査地	1998	2002	2003	2004														2005
	12/31	3/30	8/14	8/25	10/8	10/17	11/12	11/17	12/26	1/2	1/22	4/1	7/18	8/3	10/24	11/1	2005 1/9	
①宮ヶ瀬の洞穴	3																	
②札 掛		1																
③旧烏帽子岩隧道			0	0	+	+				10								
④諏訪神社の洞穴							2											
⑤吾性沢隧道								16			1							
⑥熊野神社の洞穴												1		1	0			
⑦長興山の洞穴									0				30			50	0	

＋：数個体 ①山口ほか（2002） ②カスミ網による捕獲記録 ③山口・志村（2003）

ことから、ここは冬眠だけに利用されているものと思われる。

この洞穴は発電所の導水管を造るときに掘られたもので、斜め上に開口しており、内部の高さと幅は約 1 ～ 1.5m、長さは 10m ぐらいであった。洞穴は標高約 300m の位置にあり、宮ヶ瀬湖（人造湖）に面していた。周辺はヒノキの植林地であった。

②清川村札掛

2002 年 3 月 30 日、曾根正人氏とタライ小屋沢でカスミ網を設置し、1 個体（♀、体重 4.7g、前腕長 4.05 cm）が捕獲された（環境省鳥獣捕獲許可証 5-88 号）。沢の幅は狭かったがフサザクラなどの溪畔林を形成し、標高は 490m であった。周辺はスギやヒノキの人工林、モミ・ツガの天然林に囲まれていた。

③小田原市風祭旧烏帽子岩隧道

2003 年 10 月 8 日に数個体、10 月 17 日に 10 数個体の出巢が確認された（山口・志村、2004）。また、2004 年 1 月 2 日には 10 個体の出巢を確認した。2003 年 8 月 14 日と 25 日にも開口部で出巢を待ったが確認されなかった。これらのことから、この隧道は冬眠場所として利用されているものと思われる。この隧道は江戸時代に掘られた農業用水路（荻窪用水）だが現在は利用されておらず、水が 20 ～ 30 cm 程の深さでたまっていた。開口部は高さ 130 cm、幅（底部）180 cm で内壁は手掘りのままであった。開口部の標高は約 100m で、南斜面の竹林内であった。周辺はシイやカシなどの常緑広葉樹林、コナラ、クヌギなどの二次林、スギやヒノキの植林地、ミカン畑などになっている。

④箱根町宮城野諏訪神社の洞穴（図 2）

2003 年 11 月 12 日、2 個体の出巢確認をした。この洞穴は横穴式の井戸で、神社裏の土手に掘られたものであった。開口部は東南に向いており、高さは 85 cm、幅（底部）は 80 cm であった。中には水が 5 cm 程の深さまでたまっていた。開口部から進むと途中左に曲がっており、内壁は手掘りのままであった。開口部の標高は 500m であった。神社の南側は住宅地で、裏側はシイやケヤキなどの高木に覆われていた。

⑤小田原市入生田吾性沢隧道（図 3）

2003 年 11 月 17 日、17 時頃、16 個体が出巢し、1 時間以内に同数が帰巢した。2004 年 1 月 22 日、洞内で 1

個体を目撃した。また数カ所にフンの堆積がみられた。これらのことから、この洞穴は冬眠場所として利用しているものと思われる。この洞穴は農業用水路（荻窪用水）の一部と考えられるが現在は使用されていない。雨の後は深さ 20 cm 程の水がたまっていた。開口部の標高は約 130m で東側に開口していた。開口部の高さは 95 cm、幅（底部）は 95 cm で、内部の高さは 150 cm ～ 200 cm、幅（底部）は 105 cm であった。内壁は手掘りのままであった。シイやカシの常緑広葉樹林内にあり、周辺にはミカン畑もあった。

⑥小田原市舟原熊野神社の洞穴（図 4）

2004 年 4 月 1 日と 2004 年 8 月 3 日、それぞれ 1 個体の出巢を確認した。2004 年 10 月 24 日は出巢個体がなかった。この洞穴は横穴式の井戸と思われ、神社の裏側の土手に掘られていた。10 cm 前後の水がたまっていた。開口部の高さは 100 cm、幅（底部）は 200 cm であったが、内部の高さは 100 cm、幅（底部）は 150 cm で、内壁は手掘



図 2. 諏訪神社の洞穴。



図 3. 吾性沢の洞穴。



図 4. 熊野神社の洞穴.



図 5. 長興山の洞穴.



図 6. 長興山の洞穴のコキクガシラコウモリ.



図 7. 長興山の洞穴内部.

りのままであった。開口部の標高は 260m で南向きであった。周辺はスギの植林地であった。

⑦小田原市入生田長興山の洞穴 (図 5)

2004 年 7 月 18 日には洞内で約 30 個体を, 2004 年 11 月 1 日には約 50 個体を確認した (図 6)。2003 年 12 月 26 日と 2005 年 1 月 9 日には確認されなかったので冬眠に

は利用していないものと思われる。

この洞穴は戦時中の陣地跡で, 開口部は正面に二つあり, 内壁は手掘りの状態だった (図 7)。開口部から約 20m 先で直角に右に曲がっており, その先は約 12m で止まっていた (図 8)。開口部の標高は約 290m で東側に向いていた。スギ, ヒノキの植林地内にあった。

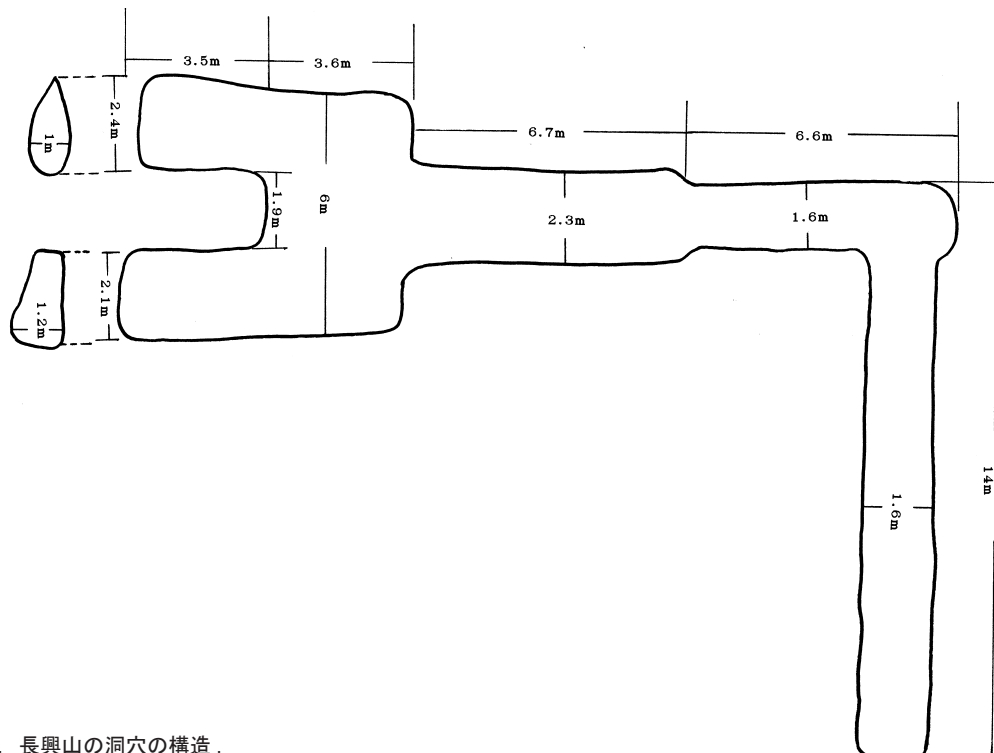


図 8. 長興山の洞穴の構造.

まとめ

今回の調査で、コキクガシラコウモリが昼間のねぐらに利用する洞穴を4ヵ所確認した。これに筆者らがこれまで確認した記録を加えると、県西部で6ヵ所の洞穴と1ヵ所の生息地がわかったことになる(図1, 表1)。

コキクガシラコウモリは防空壕や陣地跡などの戦争遺跡や農業用水路(隧道)など人工物をよく利用することが知られている。戦争遺跡は歴史的な価値があるだけではなく、コウモリ類にとっても貴重なねぐらになっており(佐野, 2003), 現在は使われていない農業用水路も同様に貴重である。しかし、これらは危険なために出入り口がふさがれたり、物が押し込められたりすることがよくある。今回の調査でも数ヵ所で見受けられた。その結果コウモリ類は利用できなくなる。洞穴に多数の人が入ることによって攪乱をもたらし、コウモリ類が利用を放棄する例もある(山本・中村, 2001)。聞き込みでも以前はコウモリがいたという洞穴が数ヵ所あった。洞穴を利用するコウモリ類の場合、ひとつの洞穴がなくなること数頭から数十頭分のねぐらが失われることになるので、大切に保存するようにしなければならない。多数が確認された長興山の陣地跡は、県内では最大数のねぐら場所となるので特に貴重な洞穴であるが、これ以外の農業用水路や横穴式井戸も重要なねぐら場所といえる。

このようなことから、利用が確認された洞穴は、早急に人の立ち入りを制限し、むやみに壊されたり、物が入れられたりしないように保存方法を検討する必要があるだろう。

県西部にはまだ他にも多くの防空壕や陣地跡、農業用水路などの洞穴が分布しているものと思われる。これらの中にはコキクガシラコウモリが利用している洞穴があるかも知れない。

また、県内ではまだ出産哺育に利用する洞穴が確認されていない。今後も同様の調査を続けて、現状を把握する必要があるだろう。

謝 辞

長興山の洞穴をご教示いただいた神奈川県立生命の星・地球博物館の勝山輝男専門学芸員と出川洋介学芸員、捕獲調査を手伝っていただいた曾根正人氏に、心からお礼を申しあげる。

引用文献

- 阿部 永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明, 1994. 日本の哺乳類. 195pp. 東海大学出版会, 東京.
神奈川県レッドデータ生物調査団, 1995. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書. 257pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
佐野 明, 2003. コウモリと戦争遺跡. ワイルドライフ・フォーラム, 8(4):93-99.
Shibata T. & K. Terajima, 1958. Bats of Miura Peninsula, Japan. Sci. Rep. Yokosuka City Mus., (3):44-52, 2pls.
寺島浩一・柴田敏隆, 1986. 鎌倉市の哺乳動物相. 鎌倉市文化財総合目録, 地質・動物・植物編, pp.82-92. 鎌倉市教育委員会.
山口喜盛・曾根正人・永田幸志・滝井暁子, 2002. 丹沢山地におけるコウモリ類の生息状況. 神奈川自然誌資料, (23):19-24.
山口喜盛・志村尚子, 2004. 小田原市の旧烏帽子岩隧道で見つかったコキクガシラコウモリとユビナガコウモリ. 神奈川自然誌資料, (25):5-6.
山本輝正・中村桃子, 2001. 環境教育としてのコウモリ観察会の実施. ワイルドライフ・フォーラム, 7:5-15.

(山口(尚): 丹沢野生動物研究会,
山口(喜): 丹沢湖ビジターセンター)